

困つてゐること、困つてゐる子

麴町區番町幼稚園

岩 本 三 子

又お正月が参りました。一つづゝ年をこつた三十九人の
ごの子もくゝめつきり大きくなつたようです。

自分もこの年位の頃のお正月がきんなに嬉しかつたかを
思ひ、この子達も嬉しさの餘り身も心も一時に成長したの
であらうと抱きしめ度いような愛情を一人くゝに感じて居
ります。

今朝も幼稚園に来て見ましたら、人少なで静かなお部屋
の一隅の日溜に小テーブルを出して、男の子が四人、繪合
せをして居りました、頭つき合せた四人の姿が日の光に
包まれて浮び上つた光景は、冷い風に冷え切つた私をすつ
かり暖めて呉れました。

この四人は四人共、今迄一度もお部屋の中なごで遊んだ
事のない元氣者達です。寒い時には教へなくてもそれに應
じた生活をして居る子供達が何故かたまらなくいさしいも
のに思はれたのです。

十人の三年保育の小さい子供達もこの頃すつかり大きく

なりました。けれご混合組を持つて見て、この頃の二年の差
ごいふものは随分大きなものだごつくくゝ感じて居りま
す。

先達も或機會に混合組の悩みを倉橋先生にきいて頂き色
々お教へ頂きましたので、今日はその御報告を致しませ
う。悩みご言つても色々ありますが、その中の大きい問題
を二つ伺ひました。

A. 智育方面

年齢二年の相違による發達程度の差は、製作なごのよう
な個人的にするものにはさ程でもありませんが、多く一
齊の方法を取る唱歌遊戯談話なごの場合、問題になつて
來ます。

例へば唱歌遊戯の場合、年少兒の興味の特續時間は永く
て十分ですが年長兒は十五分から方法によつては三十分
位迄、續ける事が出來ます。又談話の場合には、理解の程
度も違ひますし、皆に向つて話されて居る事には未だ注
意を集注する事が出來ないので、人手のある場合には
年長、年少分けてする事もありますが、出來るなら成可
くは一緒にしたいご思ふ理由も種々あるのです。

そこで年少兒を年長兒まで引き上げて、一定の時間引き
つけておくように訓練するごいふ事が考へられます。

が之は年少兒にごつては、餘りに不自然な事であるご思

ふのです。

然し年少の程度を標準にすれば、年長兒は常に不満です。此の兩者の差をこのように解決したらよいのか、悩み續けて來ました。

倉橋先生は次のようにお教へ下さいました。

常識的ではあるがこの場合には兩者の間をさる。即ち年長兒にまつては程度を下げる事になる。年長兒は力を出し切れず、不満である事はまぬかれませんが、より高いものに就かしめる不自然よりむしろ之を選ぶ可きである。智育方面ではこの組の年長兒は單一組の同年の子供より多少遅れるかも知れないが、他の方面で補つて餘りあるのだからこの邊に解決點を置いたらよい。談話の場合なごにはきちんききく事を要求しなくても良い、吾々はごもするさきちんききく事を要求しなくても良い、吾々はごもするさきちんききく事をして聞いてくれるごを不知不識のうちに要求してゐるごがあるが、子供は自由な恰好をしてゐて、手いぢりなきをしながら、それでゐてごでもよく聞いてゐるものであるから、必ずしも形の整ふごを要求しなくともよいし、又一人残らず聞いてもらふごいふごも六ヶしいごである。ご言言られましたごが、本當にさうした事を要求する自分の神経質さは全く愚な利己主義だつたご熱々思ひました。

B、訓育方面

年少兒に大變亂暴な子が居ります、大きい人達に向つて理由もなしに亂暴するのですが、年長兒達は例外なしにその子を許して了ふのです(かくあれご教へた事は一度もないのに此の大きい子達の傾向は他の年少兒達に對しても同様)。この年長兒達の寛大さは小さい子にまつてぎれ程の不幸であるかご私は何時も思ふのです、相手に加減されてゐる年少兒達の生活は本當のものではない、自分の力を過大視して空威張りする悲しい姿です。この子は自分の亂暴に對して制裁がないので益々増長して行きます。叱るごいふ事が必要ごなりませんが、家庭に於て叱られつてゐる子は殆ど叱りに對して不感症でもあるのです。叱られた時には涙を出しても、直に忘れて了ふごいふ状態。この場合私はごんな態度をさるべきか判らなくりました。

「その大きい子のは、寛大ごいふものか、手をつけられないで、さうさせて置くだけかも知れませんね。それにしても、小さい子には爲にならぬごですから、先生が變つて抑えるのですね。大きい子にも、しつかりやつて貰ひますか。但し小さい子は少々異常なごでないでせうか。それなら大に矯正する必要ごありませう。」結局、この子が對當のお友達を得る四ヶ月後まで待つ事になりました。こうして、解決して頂いて、益々勉強の必要を痛感

して居ります。

混合組と言へばこんなに惱み許りと思召しますかしら。小さい子がお兄さん達に本を讀んで貰つて居る光景なき寫眞にしてお送りしたい位。此の頃、オーヴァーは一人で着ませうと申して置きましたら、小さい子達は、着られない時は私が居りまして、必ずお姉さん達に着せて貰つて居ります。廿八乍ら、いたわり乍ら着せて上げたり、着せて貰つたりしてゐる様子を一人で嬉しさうに見て居る私を御想像下さい。そんな譯でこのお部屋も家のような氣がするのでせうか、毎日誰か彼かに無心にお母さんと呼びかけられます……年長兒の就學期が近づきました。訓練の問題も此の頃漸々一筋の道が見へて來たようでございます。では折々の御鞭撻を待ちつゝ今日は之にて。

(二月九日)

室内遊び……

附屬幼稚園

町田 行子

戶外遊びの一番好きなことも達も、寒い冬になるに多く時間を室内で過ぎなくてはならない。室外が相當に暖か

くなるおひる近くまでの何時間かは、仕方なしに室内にさちこめられてしまふ。さなるに、戶外で力一ぱい自由で遊んでゐた元氣さのあふれくるのを、さうしたらよいであらう。お遊戯室で度々リレーもし、軍隊式行進もする。鬼ごつともすれば、室内特有の樂しさもあるかくれんぼもする。しかしこれ等は戶外での遊びが、そのまゝ室内でも出來るさいふのであるが、そればかりでなく、かへつてさういふ時を利用していろくくの面白い遊びなきもあらう。さうして室内での生活も亦樂しませたい。この頃にお部屋でよくするあそびを少し擧げてみるこ、

○まりかくし、鬼を一人お廊下に出しておき、その間に誰かのエプロンの下にまりをかくし、鬼をよび入れまりをみつさせせる遊びである。鬼が室内に入つてくるに同時にピアノを小さな音で弾き始める。鬼の歩くにつれ、まりのかくし場所に近づいて行く時には音をだんくく大きくし、まりから遠ざかつて行く時には音を小さくして行く。鬼は音の強弱だけを頼りにまりを探さなければならぬ。案外に「音」に無頓着なきもの多いことである。「音」にお構ひなしに歩きまはり、いゝ加減なあて方をする。よく耳をすまし、注意深く歩くこもがちきに探してゐる事が出来る。これはなれるまでは割合に難しい遊びかも知れない。はじめは机を